

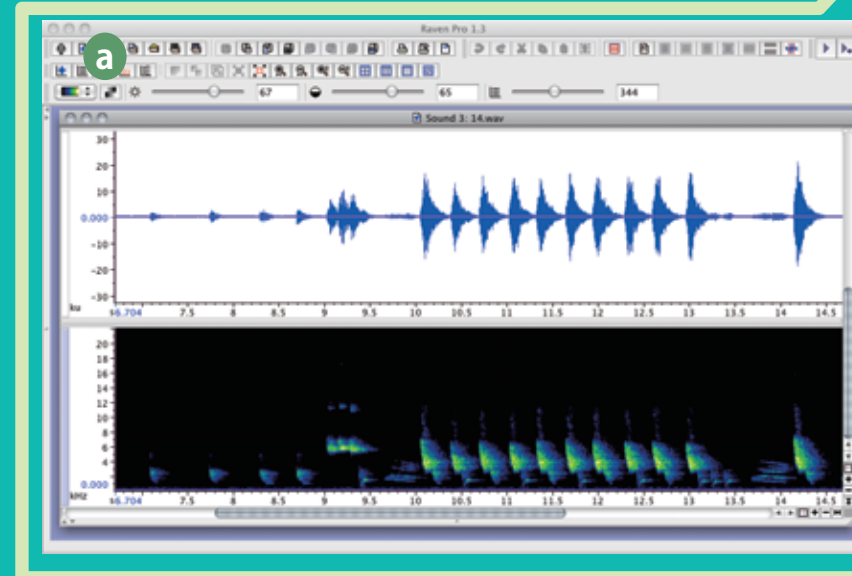
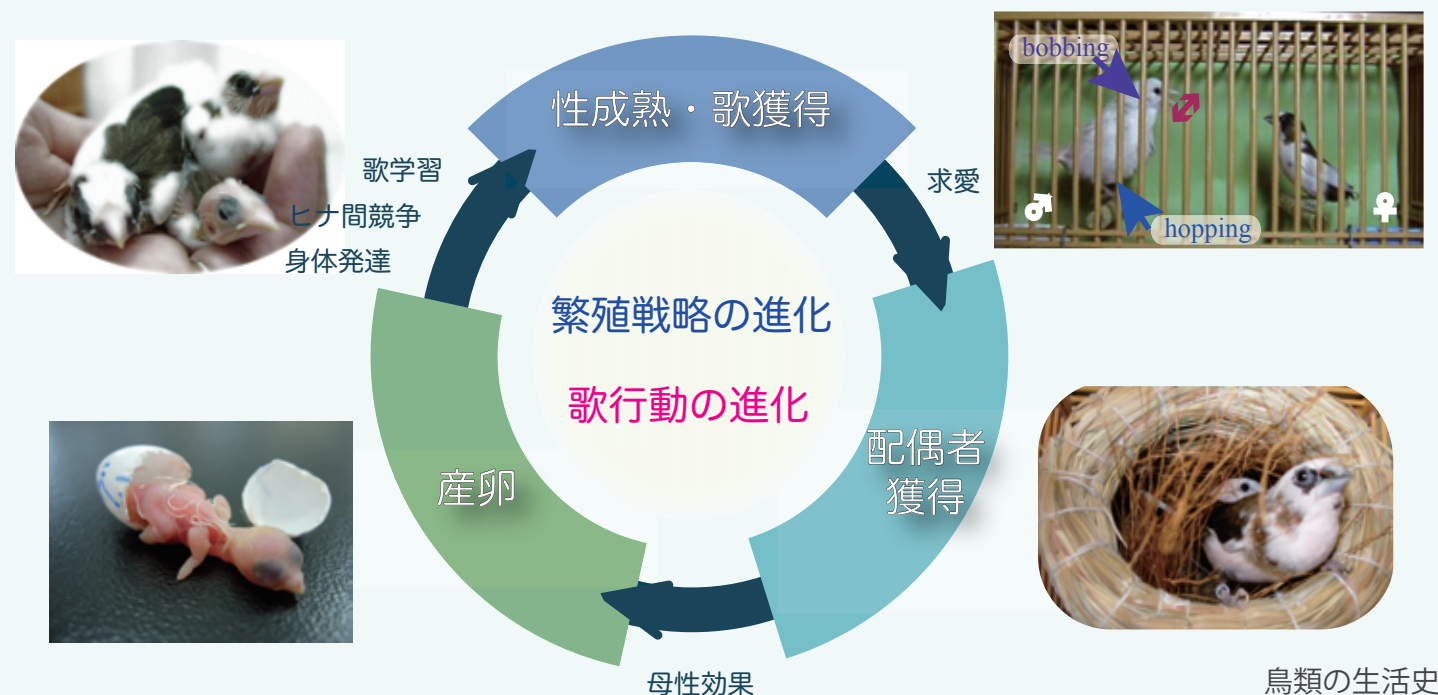
鳥類の社会・家族関係からコミュニケーションの進化を考察する

なぜ私たちは特定の人を好きになり伴侶とするのでしょうか？ 恋人にはどのようにアプローチしますか？もうける子の数はどのように決まりますか？ 息子と娘どちらが欲しいでしょうか？ どのような時、兄弟喧嘩をしますか？ これらの行動には当然、個別に状況依存的な要因が関わっているはずですが、より広い視点から生物学の問題として捉えた時、仮説検証の俎上にのせ

ることの出来る命題がさまざまにみえてきます。とりわけ、ここに挙げたような社会行動は、ヒトを含む動物がどのような社会生活を営んでおり、それを支える認知能力はなぜどのように進化したのかを考える上で鍵となるものです。

私たちは、スズメ目（鳴禽類）カエデチョウ科の鳥種を対象に研究を行っています。鳥は、ヒトとは系統

的に隔たっていますが、両親が育雛へ寄与し家族生活が営まれる点や、その社会の複雑さ、発声を社会学習によって獲得する能力など、比較対照可能な興味深い特性を呈します。具体的には、歌行動、求愛ディスプレイ行動、母鳥の繁殖戦略、母性効果、兄弟間競争などに焦点をあて、行動の機能と進化を、個体発生と生活史の観点から考察しようとしています。



(a) 文鳥の求愛歌の音声解析 (b) 文鳥の求愛から交尾にいたる行動



高校生へのメッセージ

私が研究者を志したのは、10代半ばのことです。デズモンド・モリスの『アニマル・ウォッチング』を読み、動物行動学とよばれる学問分野があるのを知りました。幼い頃から生物が好きで、その色や形、行動の多様性に興味を抱き続けてきましたが、何より不思議で知りたかったのは、一見何の意味を持つかすらよく分からない生物の振る舞い

が、実際どのような役割を果たしているのか、ということでした。動物の行動がどのような機能的意義を持ち、なぜ進化しえたのか検証するのが動物行動学です。

ドブジャンスキーの次の言葉はとても重要な意味を持っていると思います。

"Nothing in biology makes sense except in the light of evolution" --- T. Dobzhansky

